

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0307
施設名	社会福祉法人上長洲保育園
施設所在地	東京都青梅市長洲7-311
法人名	社会福祉法人

1. 〈活動のテーマ＜食育活動と食農活動を連携させた活動の展開〉

・本園では、標記テーマの具体的な活動として、給食室と保育園近くの畑で、「野菜の栽培＝種を蒔いたり苗を植えたりしての農業体験を通して、生命尊重の心を育む実践を展開しています。」収穫した野菜は、給食の食材として活用したり、自宅に野菜のお土産として持ち帰り家族で食べてもらったりしています。また、野菜の親子収穫体験も実施しています。さらに、本年度は、地域の市民祭りで収穫した「さつまいも」を袋に詰め販売活動も展開しました。

＜テーマの設定理由＞

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
○種を蒔いたり野菜を苗を植える際、園長から丁寧に種や苗の取り扱いをするようにレクチャーすると気持ちを込め種や野菜の苗を丁寧に取り扱いしている。これは、物も大切にできれば人も大切にできるという理念から、園児たちに説明し活動してもらっています。また、種を蒔いたり苗を移植した後に必ず「おおきなあれ」のおまじないを行う事が、恒例行事となりました。
○保護者も自宅への野菜のお土産を期待しています。野菜嫌いの園児がこの初期区食農の取り組みで、野菜が好きになったという変容を見せている。また、収穫した野菜に対し、非常に丁寧な取り扱いができるようになりました。
○食育活動として5歳児における一食作り（給食作り）や切り干し大根作り、4歳児における味噌作り（5歳児の一食作りの味噌汁にの具材として活用）、全園児対象に調理師による魚の解体ショー等、様々な活動を展開しました。

2. 活動スケジュール

○季節の野菜を育てるという設定で、毎年3月には次年度年長クラスとなる園児たちにアンケートを実施し、畑の条件を配慮し、食育食農委員会（本園の組織）で要望に沿った野菜をできるだけ育てるよう年間計画を立てています。また、活動スケジュールについては、給食室の栄養士、調理師、食育・食農委員会のメンバーで、園児たちのレディネスや畑の環境を配慮したうえで年間計画を立てました。特に令和7年度は夏の高湿と夏&冬の降水量が少なかったため、集荷量に影響がありましたので、予定していた活動はおおむね推敲することができました。この内容に関しては別紙年間計画ならびに園だよりを参照願います。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○堆肥の散布 ○畑の耕耘 ○育てる野菜に合わせた畝作り（じゃがいも・サツマイモ・夏野菜や秋冬野菜）と夏野菜や秋冬野菜のマルチシートを張る作業 ○毎週の草取りや草刈り ○追肥（EM酵母菌）の散布 ○収穫用農具の準備 ○夏野菜の収穫の際の蚊取り線香や虫よけスプレーの準備 ○収穫用のかごや家庭に持ち帰り用袋の準備 ○園児用の農業アイテム ○収穫した野菜を詰めた袋を閉じるバックシラー

4. 探究活動の実践＜活動の内容＞

○種や苗からどのような過程で野菜（植物）が成長していくか探求していく。保年度も、じゃがいもの種芋を移植した際、どのように発芽しどのように育っていくかを想像し、これからどのように成長するか「絵」を書いてもらい、園児たちの想像力に驚かされました。
○園児たちが活動している畑は園舎から近い距離に畑があるので、散歩がてらに野菜の成長過程を観察することができ、いつ頃に収穫できるか園児たちにも考えさせ、収穫できる日を、期待をもたせることができました。
○野菜を収穫する際の「こつ」を地域のボランティアの方々にご指導をいただき、一つ一つの野菜を丁寧に取扱いすることができました。又、収穫したダイコンで保存色である切り干し大根作りに挑戦！
○畑での活動や一食作りにおいては、怪我をしないよう事前の指導の中で園児たちに理解をしてもらいました。その結果 食育活動や食農活動での怪我は皆無でした

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

○園児たちは、夏野菜（ジャガイモ・キュウリ・ピーマン・トマト等）の苗の移植や冬野菜（ダイコン・サツマイモ・カブ等）畑で、種を蒔いたり・苗を植えたりする食農体験をすることが大好きになってくれました。
○親子収穫体験では、ウィークデイにも関わらず0歳児から5歳児までの園児&保護者が多数参加していただきました。この内容は西多摩新聞の2025(令和7年度)11月28日（金曜日）号に掲載され、地域の方々にも本園の食育活動ならびに食農活動の取り組みを知っていただく良い題材となりました。



5. 振り返り＜振り返りによって得た先生の気づき＞

○数年前から給食室と食農（園長が提案）活動を連携させた活動実践が8年目を迎え、現在では本園の特筆すべき活動となりました。スタート当初は予算の編成が難しく思うような活動ができた現状でした。しかし、令和6年度から東京都保育サービス推進事業＝とうきょうすくわくプログラム推進事業に参加させていただき、活動内容において随分厚みが出てきました。
○園児たちの活動においても子の食育&食農活動を基盤に、園児たちの主体的な濃い活動ができるようさらなる工夫した計画を立て実践していこうと方向性が定まりました。
○園児たちに少しでも本物に近い食育・農業体験をさせていく状況において、このとうきょうすくわくプログラム推進事業の支援に深く感謝しています。